



6 2023

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: jho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・ディジー)」 山口さん ☎0798-34-4228

☆ 神戸ハイブルハウス20周年記念コンサート (2面) ☆ 千里ニュータウン教会50周年記念 (3面) ☆ 諸宗教対話委員会 廣田神社訪問 ラジオ「信仰の時間 大久保 武神父」 (3面) ☆ イエスにならう生き方を求めて (4面) ☆ ガラシア健康だより 第一回 カテキズムの学び 生きるー難民移住者 (5面) ☆ 生けるー難民移住者 (5面) 広報委員会へのEメールアドレス=jho@osaka.catholic.jp 『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

舞子共同納骨所の案内はこちら ▶ https://www.osaka.catholic.jp/cemeteries/maikoossuaries.html



新しいミサ式文 導入はスムーズ 課題も

時報 アンケート

新しい「ミサ式次第と第一〜第四奉献文」の変更箇所が実施されてから、約3カ月の時点で、大阪教区時報では各小教区に対して現状を問うアンケートを実施した。その結果、26小教区から回答があった。新しい式文になかなか慣れることができない小教区もあるが、おおむね導入はスムーズで、次第に慣れつつあることがわかった。導入に際して学習会をもつなど工夫が見られる一方、会衆の言い間違いや歌唱ミサへの取り組みに困難を抱える小教区が多く、式文に関する疑問も根強くあることもわかってきた。今後、新しい式文を生かしてミサをより豊かにするための課題も見えてきた。

▼質問① 信者さんは『新しいミサ式次第』によるミサに慣れてき始めていますか？

「長く慣れ親しんだ式次第が変わったため信者が戸惑うのでは」と思っていたが、思っていたよりもスムーズに移行できているように感じている」との回答から、『新しいミサ式次第』の導入について、事前に準備をしていたこともあり、各小教区ともスムーズに移行できたことが分かる。

「新しいミサ式次第」の導入について、事前に準備をしていたこともあり、各小教区ともスムーズに移行できたことが分かる。しかし、方向を変えて『質問③』『新しいミサ式次第』を使うにあたって、今何が一番大変ですか？と問うと、問題なしと9小教区が答えたものの、オルガニスト、聖歌隊もしくは聖歌の練習に困難を感じている小教区が7つあった。司式者の対応(3小教区)を加えると、半数の小教区で唱えるミサについては慣れてきているが、歌唱ミサについては対応が遅れている現状が浮かび上がってきた。



「質問① 信者の皆さんは『新しいミサ式次第』によるミサに慣れてき始めていますか？」のカウンタ数

「聖歌の練習に少し時間がかりましたが、今はもう大変ということはないと思われそうです」との回答から、み取れるように、オルガニスト・聖歌隊から練習が始まっており、今後、信徒全体で練習に取り組むことで、次第に新しい歌唱ミサも定着してゆくものと思われる。

もう一つの問題は、質問②で、信者の応答部分でどうしても言い間違えるところがあることだ(6小教区)。

新しくなった言葉のところで、古い言い回しが口をつくことはよくあるだろう。これも繰り返し修正したり練習したりすることで、次第に減少するものと思われるが、信徒からの質問や意見に対して、勉強会やミサのお知らせを使って説明をつくすことも必要だと思われる。

また、「奉献文など、複数選べる箇所などは、大多数の信徒が複数あると認識していないので、その内容普及」も課題である。『新しいミサ式次第』では、季節やミサの主題に基づいて式文を選ぶことができる。その豊かさを味わうことができなくなってしまう。信

カトリック舞子共同納骨所 祝別式

4月21日、舞子共同納骨所の祝別式が酒井俊弘補佐司教の司式で行われた。舞子共同納骨所の改修工事が終了し、4月1日より新規受付を開始した。この改修工事により、共同埋蔵スペースが拡張し、多くの信徒が納骨できるようになった。納骨式は原則年1回(毎年11月第一日曜日)の神戸地区合同追悼祭時のみ。ただし、小教区担当司祭が特に認めた場合は、別日に納骨を行うことができる。

※ 祝別式の様子については、大阪教区ホームページ『墓地・納骨堂・納骨所』のバナー内にある、舞子共同納骨所の案内に掲載。

問い合わせ先▶ 資料請求：教区本部事務局(管理部門) 電話：06-6941-9705



聖香油

司祭叙階 ダイヤモンド祝・金祝



前田大司教と司祭による香油の祝別

4月5日(水)、大阪カトリック聖マリア大聖堂で聖香油ミサがささげられた。昨年はコロナ禍により非公開ミサとなったが、今年は状況も落ち着き、79人の司祭と約200人の信徒が集まった。教区長である前田万葉大司教とともに司祭職の約束と更新、聖香油の祝別が行われた。

酒井俊弘補佐司教は説教で「司祭とは神から油を注がれたものであり、キリスト自身です。だからこそ司祭職に呼ばれ、それに応え、司祭として生き続けることを約束する私たち聖職者は、この司祭職という宝を大切に守らなければなりません。そして私たち聖職者にはそうする義務があります。その生き方を特別な形で学ぶのが、明日からの聖なる三日間です。最



新調された病者の器・洗礼 志願者の器・聖香油の器



前田万葉枢機卿の説教

神戸バイブル・ハウスとは

【解説】 クリスチャンセンター神戸バイブル・ハウスは、日本で唯一の聖書ライブラリーであり、キリスト教諸教派が相互の一致と協力の上で運営されています。

貴重な聖書資料やさまざまな聖書を所蔵し、聖書の普及に貢献しつつ、講演会やセミナー、音楽会、展示会、美術展、巡礼旅行など多彩な活動を通して、福音を証する働きを推進しています。1904年(明治37年)、「大英国聖書会社」(BFBS)と「北英国(スコットランド)聖書会社」(NRSS)が神戸居留地において聖書事業を開始し、バイブル・ハウスにて聖書刊行・販売事業を展開したことにルーツがあります。太平洋戦争により初代バイブル・ハウスは閉鎖を余儀なくされました。

2001年に神戸聖書展が開催され成功を収めたことで、神戸の地で恒久的なクリスチャンセンターを創設し聖書を伝える働きを再開しようとする活動が始まり、2003年、神戸バイブル・ハウスがスタートしました。

長く理事長を務められた、池長潤名誉大司教は、「神戸バイブル・ハウスは、聖書の紹介と普及、キリスト教の世界を伝える宣教の業を担う組織であり、活動を通して(諸教派の人びと)が交わりを深め、「共存」の喜びを分かち合う場(ニューズレターより)であると述べられています。

(20周年記念誌より)

千里ニュータウン教会献堂50周年感謝ミサ

春光や千里五十路のペトロ堂

4月23日、前田万葉大司教の司式により、千里ニュータウン教会献堂50周年感謝ミサがささげられた。

聖堂には150人ほどの信徒が参列し、コロナ禍で繰り返された主日ミサの中断以来、久しぶりに来られた方も多く見受けられた。この聖堂は保護の聖人として聖ペトロを選び、初代主任司祭(梅原彰神父)の時代に建立され、歴代主任司祭や数多くの先達の方々の御苦勞の下に維持、拡大される中で、信者たちの数々の思いを刻みながら、このたび50年の節目をむかえた。

前田大司教は説教の中で、「キリストを土台とする教会」は「神の民の共同体」であり、「神が共におられる民の家・祈りの家」であり、さらにキリストの住まいとして私たちを育てていくところであると話された。また大司教は4人の堅信者に「教会の土台堅信復活祭」と句を詠まれ、堅信は信仰上の成人式であると言えること、堅信によって大人の信仰になる、成熟するという

恵みをいただくということ、そして私たちはキリストの証し人として、一人前の宣教者になると話された。大司教の訪れそのものが大きな喜びであり、とりわけ大司教司式による献堂50周年の感謝ミサは、千里ニュータウン教会の歴史において大きな喜びとして記憶され、さらに堅信の儀において聖霊が注がれた出来事も含めて、51年目を歩み出す千里ニュータウン教会の福音宣教に力を与えることだろう。

(文 千里ニュータウン教会)



神戸の地に20年

神戸バイブル・ハウス20周年を祝う

クリスチャンセンター神戸バイブル・ハウス(神戸市中央区磯上通・「神戸バイブル・ハウスとは」左囲み参照)は、4月15日(土)、神戸栄光教会において創立20周年の記念イベントを開催した。

第一部 記念礼拝、第二部 感謝と祝賀、第三部 陣内太蔵コンサートにのべ350人が参加し、これまでの歩みを振り返りつつ、「進化・展開」をキーワードに、これからの歩みに向けた決意を新たにしました。

第一部

創立20周年記念式典は「Mission Forward! 進化・展開(希望のことばをひろめるために)」をテーマに取り組まれた。美しいパイプオルガンの音色で始まった第一部の記念礼拝では、前田万葉枢機卿が「なぜ『みことば』を伝えるのか」をテーマに説教を行った。前田枢機卿は、バイブル・ハウスが30周年を越えて長く発展するようにと願っていると語り、日本で唯一の聖書図書館と

第二部

あなたがい祈りのうちに第一部が終わり、続いて第二部 感謝と祝賀

第三部

昼食休憩をはさんで、陣内太蔵コンサートが行われた。陣内太蔵牧

師は、「ミュージシャン&クリスチャン」をテーマに日本基督教団東美教会(東京吉祥寺)の主任牧師を務めながら、全国各地でチャーチコンサートを行っている。会場では、「音楽」業界と「教会」両方で働いていると語り、笑いが広がると聴衆を和ませていた。子どもたちから経験した教会の日常風景を笑いに変えながら、「空よ」、「心の扉」、「僕は風

君は空」などオリジナルソングを披露し、記念イベントに花を添えた。最後にあいさつに立った陣内太蔵理事は、20周年の記念事業として取り組まれている記念募金や友の会の会員募集はこれからも続けられると報告し、新たに教会単位でバイブル・ハウスを支援する取り組み「イクトウス」が始められたことに触れ、それら活動への協力を呼びかけた。さらに、さまざまな要因が重なりしばらく開催することができなかつた神戸市民クリスマスを、12月に神戸文化ホールで行うとの発表があった。神戸市民クリスマスを神戸バイブル・ハウスが主体となって復活させ、20周年イベントのファイナルとするとのことだ。

20周年を迎えた神戸バイブル・ハウスは、30周年に向けてこれまでの活動を一層充実させると同時に、新たな展開を目指して、その一歩を踏み出した。

(文 広報委員会 委員長 川郵裕明)

20周年記念式典



陣内太蔵牧師コンサート



関学グリーの合唱





司牧者からリレー形式で若者たちにぜひ読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、山本英明神父(阿倍野教会)が担当。



山本英明神父から
この一冊



『海と毒薬』(遠藤周作著、新潮文庫、1960年発行、税込 407円)
本が嫌いで、一冊の本を読み切ったことはありませんでした。へ次の文を読んだ、設問に答えなさい」という類の試験は、文章を読まず、いい加減に設問に回答をして、乗り切っていました。
高校3年の夏に、『海と毒薬』を問題文とした過去問を解く機会があり、なぜかその時、はじめて本文を読んでもみようかという気持ちになりました。そしてこの文章に引き込まれました。この筆者の考えていることは鋭く、「すごいな」と思ったのです。こんな深いことを考えている人がこの世にいるなら、この人のことをもっと知りたいと初めて思いました。その後

遠藤周作だけでなく気になる作家の本を読むようになりました。
その過去の解説に、遠藤周作が、カトリック作家であること、カトリックについてすごい宗教なのかもと思いました。これが私のカトリックという宗教との最初の接触です。そして、その日の学校帰りに、『海と毒薬』の文庫本を購入し、その夜、寝ずに読み切りました。これが初めて、最初から最後まで読破した一冊です。また翌日、学校の図書室で新約聖書をはじめ手に取りました。
カトリックってすごいのかも勘違いした点は、記憶が曖昧ですが、登場人物の一人が、小学生の時、病気で休んだ級友のために配布物をもっていく個所で、自分はこの病気の級友のことを思っていたのこ

とではなく、ただ、それをするだけで周りから、先生から賞賛を受けたら、先生という子どもながらのどす黒い心の動きを告白した部分です。こんなことを白状できる宗教ってすごいなと思つたら、実際は、なかなか他人を踏み台にして、賞賛を受けて喜んでるケイスが多いなと今は、カトリックではなく、遠藤周作が深かったのだなと思つています。実は、聖書を読めば、その白状こそ悔い改めなのですががね……。
『海と毒薬』は短く、日本語も読みやすいので、紹介しろと言われるならこれです。一番、読んで欲しいのは聖書です。

次回は、英隆一朗神父(六甲教会)です。



諸宗教対話委員会 神道との対話 廣田神社訪問



3月18日、兵庫県西宮市に在る、県内で最も古い神社の一つとされる廣田神社を訪問した。諸宗教対話委員会の活動は、勉強会と宗教施設訪問が含まれる。新型コロナウイルス感染症のため、施設訪問は中止を余儀なくされてきたが、収束に近づきつつある今再開となり、カトリック、プロテスタント、そして他の宗教の人びと約30人が集まった。

立派な鳥居をくぐると嶋津宣史(ねづのり)が私たちを笑顔で迎え、神社本殿に案内してくれた。ここでは神職が祈りを捧げ、その後カトリックから聖書朗読、詩篇、主の祈りを含む祈りの交換が行われた。次に、委員長(記者)

は廣田神社の西井璋(あきと)宮司に挨拶し、大司教前田万葉(まなは)枢機卿の代理として教皇庁諸宗教対話評議会から神道への新年メッセージを届けた。宮司からはお礼と歓迎の挨拶があった。
その後、ホールで嶋津先生が神道と自然の関係

について話した。先生は2018年以来、当委員会の活動に協力して、今では委員会の良き友人となっている。先生のその温かい人柄に触れ、皆は興味深い話に聴き入った。講演は参加者から興味深い質問を引き出し、有意義な対話を生み出した。
質問からは、日本のカトリック信者は他宗教信者と、どう関係を持つべきか悩んでいることが分かる。確かに諸宗教対話委員会の第一の目的は、カトリック信者が相手の信仰を尊重しつつ自分の信仰を隠さずに、安心して他宗教の人びとと関わることをできるように養成すること



神道と自然の関係について話す嶋津先生

この活動が多くの人役に立つことを願い、次のイベントで多くの人と会うことを楽しみにしている。
(文 諸宗教対話委員会 委員長 ロッコ・ビビアーノ神父)



ラジオ 信仰の時間

新たにされた人びとの生活
4月担当(4月16日放送分)

大久保 武神父
(相生教会)

復活節では、復活されたイエス様と出会った弟子たちのその後を伝える使徒言行録という書物が、ミサでよく取り上げられています。今も世界で広く知られているペトロやパウロを中心に、どのような宣教が行われていったのか、その結果として世の中がどのような反応を示したのかが記されていて興味深い内容となっています。そこで今回は、新たに信仰者となった人びとの姿についてお話ししてみたいと思います。

エルサレムでは、ペトロがイエス様の正しさを聖霊と共に淀みなく宣言したことを受け入れた人びとがいました。実際に目の当たりにしたわけではありませんが、ペトロの声の自信や揺るぎない表情、それらから見出せる聖霊の働きを感じたのだと思います。イエス様の十字架の出来事はエルサレム中に知られていたでしょう。あの敗北にしか見えない出来事がまさか復活へと繋がり、イエス様こそが主であると神様

が公に示した事実は非常に衝撃的であったと思われます。人びとは自らの過ちを悟り、信仰を新たにしたいと望み、ペトロにどうすれば良いのかと相談します。そこでペトロは「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい」と告げました。復活されたイエス様が命じられた宣教の働きをさっそく実行しています。マルコによる福音書でイエス様は「信じて洗礼を受ける者は救われる」と言われていますが、ペトロの言葉を見てみると、救いとは一つに罪の赦しであると受け取ることができます。イエス様の名による洗礼は赦しが現実となるばかりでなく、イエス様を通じた神様との新しい繋がりに至る、人間にとって根本的な儀式です。

人びとは、それからどのように過ごしていたのでしょうか。使徒言行録ではまず「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂く事、祈る事に熱心であった」と書かれています。使徒たちはイエス様から受けたものを人びとに伝えているのであり、つまり使徒たちを通して人びとはイエス様の教えを聞いていました。

聞くばかりではなく、信じる者同士では共に励ましていたでしょうし、まだ信仰に至っていない人びとに対しては愛に基づいて支えつつ、根気強い呼びかけを続けていたのだと思います。

何より大切な事としてパンを裂くこと、つまりイエス様ご自身を与えられた最後の晩餐(ばんさん)の記念を忘れませんでした。信仰者としての行いは全て、

イエス様を由来として実現されていきます。今も私たちはミサの中でご聖体をいただいています。まさにイエス様が心も体も一つになるようご自身を与えてくださっているのです。当時の人びとも、パンを裂くことを通してイエス様が常に一緒にいてくださることを確かめていました。

そして人びとは祈り続けます。祈りとは神様への信頼を確かめ、神様の望みに応えることを宣言し、その上で自分が具体的に望むことを言い表し、必要な恵みを願う一連の流れです。イエス様のように生きることがキリスト信者の目的ですが、イエス様が朝早くから祈っていたように、何を始めるにもまず祈りから入ることが大切です。

これらの土台の上に、新たな信仰者たちは皆一つになって全ての物を共有していました。ただ差し出せばいいわけではなく、イエス様と共にいる生活が深まるうちに、自分だけの物など何もないのだと悟ったのだと思います。イエス様は神様のために全ての人びとに心を開きました。私たちもそんな姿こそが最も正しく幸いな人生だと信じて、祈りの内に生きてまいりましょう。

毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
6月担当: 山口武史神父
ABC ラジオ (朝日放送) AM1008/ FM93.3
スマホアプリの radiko でも聴けます。

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

第41回 Heiwa junkan

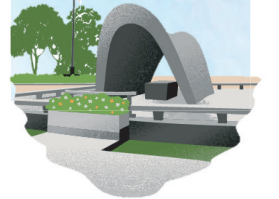
平和旬間



8月6日(広島原爆の日)～15日(終戦記念日)

戦争は人間のしわざです。
戦争は人間の生命の破壊です。
戦争は死です。

(教皇ヨハネ・パウロ二世)



このアピールから42年経った今でも、戦争は途絶えることがありません。私たちが生きる東アジア諸国でも、大国間の利害がぶつかり、いつ戦争に巻き込まれてしまうかわかりません。今年も、決してあきらめることなく平和な社会を築いていく担い手になれるよう、祈りとともに歩んでいくことが出来る平和旬間になりますように。

1981年、教皇ヨハネ・パウロ二世は、平和の使者として訪れた広島で平和アピールを発表した。

1982年、日本の教会はこのメッセージを受けて、8月6日～15日までを「日本カトリック平和旬間」と定めた。

— わたしたち一人ひとりが平和のつくりびと —

2023 教区平和旬間テーマ

「希望をもってともに歩む Let's hope and walk together



～あきらめずに目を覚まして Stay awake, never give up～」

今年は「シノダリティ(ともに歩む教会のため ～交わり 参加 宣教～)」の精神を持って行動する年です。平和旬間のテーマはこの「シノダリティ」と「世界平和の日」教皇メッセージからヒントを得て、戦争と平和の視点から考えられました。



「ともに」対話すること、とりわけ外国籍の方、戦争体験者の方の話を聞くことが大切です。コミュニケーション不足が目立つ今、全ての人々がともに生き、お互いの言葉に耳を傾ける世の中が平和に近づくこととの願いがこめられています。また、日本と世界の現実には希望が持てない状況ですが、あきらめず現実をしっかりと見つめ、「ともに」祈ることも求められています。そのために外国籍の方にもわかりやすく英語表記も入れました。

各地区、ブロック、小教区での企画準備が進められています。

企画するにあたり、ヒントがあればぜひ欲しいという声が多数寄せられました。過去に取り組まれた中からいくつかご紹介します。

こんな集いにしたいね！

絵本を通して平和を考える

朗読、スライド、子どもも大人も一緒に紙芝居をつくり、当日わかちあう。



戦争と平和の経験、生き方、考え方などのアンケートを事前にとってわかちあう。



世代間での分かち合い

質問しあったり、話をきいたあとにメッセージの交換をする。



国籍、世代を越えてひとりでも多くの人に参加できる集いにしたいな
少子高齢化だし、隣の小教区と一緒にできるといいな。



パネラーによるスピーチリレー

共同開催にして、各教会からスピーチしてもらいわかちあう。教会間のつながりもできる。



多言語で表記したポスターを作成する

国際ミサを行い国籍を越えた平和祈願ミサを行う。

わかちあったことを、祈りにして来年の平和旬間まで、日々の祈りに取り入れる。

戦時中の食糧難を思い起こすために「おにぎり」を各自持参して体験者の話を聴く。

すいとんをつくって食べる。



写真や証言を通して戦争に触れる解説に英訳などをつけると外国人とも共有できる。

期間中に図書コーナーを設ける

近隣の戦争遺跡を巡る

多言語で平和の思いを伝え合う

歌や演奏を通して平和を考える

平和学習の発表

最近の世界の情勢を取り上げる

核なき世界基金について



「カテキズムの学び」

第42回 洗礼の秘跡(前半)



入信の秘跡のうち、最初の洗礼の秘跡についての学びが始まりました。

聖なる洗礼はキリスト者の生活全体の基礎、霊的生活の扉、他の諸秘跡に導く入り口です。(1213番)

カテキズムがこう述べているように、七つの秘跡の中で他のすべての秘跡への入口とも言えるのが洗礼です。洗礼はキリストが制定した秘跡ですが、それ以前の旧約時代の様々な出来事が実はその前表であったことが、復活徹夜祭における水の祝福の祈りで語られます。

天地の初めにあなたの霊は水の面を覆い、……ノアの洪水の時、水をあふれさせて、……エジプト脱出の時、海の中に乾いた道を備えて約束の地に渡らせ、ファラオの奴隷から解放して…。(水の祝福第一形式)

クラスでの質疑応答では、旧約の出来事が前表かどうかは容易に分かるのか……という質問がありました。そのことについてカテキズム自身がこう答えています。

キリストを基にして、真理の霊によって読みなおすとき、前表(予型)の意味が明らかにされます。(1094番)

こうして長い時間をかけて準備された洗礼の秘跡ですが、成人洗礼の場合は通常、求道期間にカテキズムを受けた後、入信の三つの秘跡である洗礼、堅信、聖体が続けて授与されます。幼児洗礼の場合は、洗礼から初聖体、さらに堅信と10数年に渡ってカテキズムを受けながらとなります。

さて、幼児洗礼は「子どもには一番いいものをなるべく早くという親心から考えれば当然」と説明したところ、動画を見られた方から「宗教は自由と言うのもわかるような気がして、あえて何も触れずに来ていましたが、やっぱり、いいものは与えたい! かわいい孫なら尚更です」という反響がありました。さらに、ご自身を振り返って「私は幼児洗礼だから、こんな真面目な勉強はしていませんが、でも今聴くとよくわかります。楽しく理解でき、いろいろなことが繋がっていきます。やっと学習のときが来ました」と言われていました。

皆さんも一緒に学びませんか? (文 酒井俊弘補佐司教)

ガラシア健康だより

介護予防 ～介護をする人受ける人へ～

大阪府箕面市に本拠を置く医療法人ガラシア会から、全6回の介護予防をテーマにした健康情報をお届けさせていただきます。皆さまの健康への一助になれば幸いです。

第一回 介護予防とは

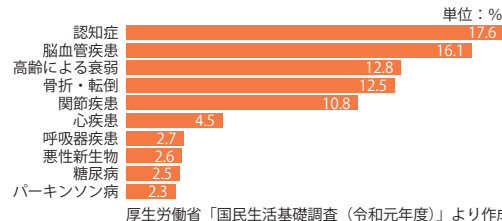
■健康を保つことは誰のためか

厚生労働省の令和3年度末の報告によると、65歳以上の18.7%は要支援・要介護認定を受けています。75歳を超えるとその割合はさらに上昇すると言われています。また、主な介護者の年齢は、60歳以上が全年代の70%以上を占めています。つまり、60歳を超えると誰かの介護をすることになり、75歳を超えると誰かの介護を受けることとなります。老老介護問題を抱える現代社会において、介護負担を減らすことは重要な課題と言えます。介護をする人は体力が必要ですので、介護を受ける人自身が少しでも多くのことをできれば、介護をする人の心身の負担は軽減されます。自身が最後まで豊かな人生を送ることはもちろん、誰かを介護するために、また介護してもらう誰かのために、よりよい健康状態を保つことが大切と言えるでしょう。

■介護をする人受ける人の心の準備

表に示すように、さまざまな要因で介護を受ける状態となります。いつどのような形で介護が必要になるかの予測は難しいですが、これを機にご自身が介護を受ける、または介護をすることになったときのことをご家族で話をしてみてはいかがでしょうか。終の棲家について、在宅介護サービスについて、外出や日常生活に介助が必要になった場合についてなど具体的かつ前向きに話をしていくとよいでしょう。「ガラシア健康だより」では、各種病気やケガの予防法について、介護をする人、受ける人の視点でお伝えさせていただきます。ぜひ、最後までお付き合いください。

表 介護が必要となった主な原因の構成割合



ガラシア健康だよりのテーマ

回数	テーマ
第一回	介護予防とは
第二回	脳卒中・心臓病の予防
第三回	骨・関節疾患の予防
第四回	認知症の予防
第五回	転倒予防
第六回	誤嚥性肺炎の予防



ガラシア病院では…

ソーシャルワーカーが医療と介護の相談・援助を行っています。必要に応じて地域の医療機関・福祉機関と連絡を取り合い、在宅療養への準備もお手伝いいたします。

ガラシア病院地域医療連携室
お問い合わせ: 072-729-2345

「生きる」難民移住者

世界難民の日によせて

昨年 UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は「世界の難民は一億人を超えた」と発表しました。そう聞くと、私たちは難民を大きな負の塊のように捉えてしまい、「日本の経済や治安を脅かすお荷物集団の受け入れは御免だ」という感情がわいてくるのではないのでしょうか。

確かに難民には負の印象が付きまといまふ。私の経験からも、迫害の恐怖を体験した人は暗く無表情で、眼は人間への不信感に満ちていることがあって、正直にいうと初動の時には「負



さんの耳を見た日本人が「スポーツをやっているの」と声をかけてきました。実は Sさんは本場でレスリングをやっている、何度も世界選手権を勝ち抜いた経歴の持ち主でした。耳で声をかけるとはさすがレスリングの盛んな松阪市です。

Sさんは松阪レスリングクラブに招かれて、コーチとして青少年の育成に携わりました。中にはレスリングの強豪大学に進学した若者もいて、彼はクラブから何度も感謝状を贈られました。

もし銭湯で出会った人が「怪しい外国人だ」と感じれば、Sさんに距離を置か、或いは警察に通報した可能性もあったでしょう。よそ者として見るよりも耳を見て親近感を持つてくれた人のお陰で、Sさんは「器のあるレスリングの指導者」として力を発揮する道が開かれ互いを尊敬しあう関係性が生まれたのです。

Sさんは今、難民の保護申請中の身です。今後入管が彼を収容したら、私は松阪レスリングクラブの人に嘆願書を書いてもらおうと思います。

6月20日は世界難民の日。難民を「お尋ね者」的に見るのか「善き訪れ者」的に見るのか、私たちが考える日です。

(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

訃報

場知賀 礼文神父(淳心会)は、2023年3月24日、心臓発作のため帰天。87歳。ベルギー出身。



1956年、淳心会に入会。61年に司祭叙階。62年来日。日本語を勉強し、その後、大阪教区小神学校で会計を努め、後に大阪大学にて宗教社会学を学ぶ。69年、72年、加古川教会・中山手(現神戸中央教会)で助任として司牧をしながら、勉学に励む。

70年より英知大学でも非常勤として努め、77年より長年にわたり、京都の佛教大学で教鞭をとりつつ、さ

さまざまな機会を通して、国際社会学について講義に尽力をつくした。また日本の美にとっても関心があり、生涯それを学び宣教師として恵まれたことを感謝し、あじののままの自分として、イエス・キリストの福音を証しすることに励んだ。

Sr 岡野きよ(大阪聖ヨゼフ宣教師道女会)は、2023年4月15日、乳癌によりガラシア病院(ホスピス病棟)で帰天。93歳。宮城県出身。奉獻生活64年。



東仙台教会で受洗。1958年初誓願後、長年、幼児教育に携わり、後進の指



入会前に大病院で看護師として勤務中に受洗。1972年初誓願。姫路聖マリア病院、聖フランシスコ病院(長崎)に勤務。看護部長、病院長の責務を果たした。日本管区の顧問、管区長を歴任し、2000年の総会以来、総顧問として12年間務め、日本管区長を受任。18年再度ドイツ総本部の奉仕を受任。19年体調を崩し、数回の大手術と治療にも耐え、4年間最期まで治癒の希望をもち過ごした。人懐っこく、歌と踊りが好きで、だけれども愛された。総本部聖堂で多くの人に見守られ、敷地内の先輩姉妹たちが眠る墓地にともに葬られた。

Sr マリア クロステラ 渡邊(聖フランシスコ病院修道女会)は2023年4月3日、ドイツ・ミュンスタにある聖フランシスコ病院で帰天。79歳。新潟市出身。奉獻生活51年。

